

シバザクラ

佐治健介（NPO 法人防草緑化技術研究所/（株）白崎コーポレーション）

毎年、春になると、地面を覆う赤や白、ピンク色の花がテレビの画面や新聞紙面を彩ります。葉が芝生のように見え、春には桜に似た花が咲くことから名づけられたシバザクラは、滝上公園（北海道）や羊山公園（埼玉県）などの代表的な名所をはじめとし、近隣の公園や、道路沿いの斜面、民家の庭先など、日本各地で目にします。花が見ごろとなる期間は短いのですが、色鮮やかに咲き誇る姿は、見る人に強い印象を与えます。



シバザクラで景観を彩った公園
福井県おおい町の丸山公園



徳島県吉野川市の高開石積み
シバザクラまつり
土の流亡を抑えるため、石垣を
シバザクラで縁取りした例。



シバザクラの花
桜の花に似た、小さな花をつける
左 スカーレットフレーム
右 ダニエルクッション

シバザクラ（芝桜、学名：*Phlox subulata* L.、正式和名：ハナツメクサ）は、ハナシノブ科の常緑多年草です。原産は北アメリカで、日本では 20 世紀初めごろから観賞用として栽培されるようになったと言われています。地域や品種によって差はありますが、4～5 月ごろに、直径 1～2cm 程度の小さな花を咲かせます。草丈は 10～15cm 程度と低く、芝のように地を這って広がります。耐寒性に優れ、乾燥にも強く丈夫である点、管理が容易で繁殖力も旺盛な点、年に 1 度鮮やかな景観が楽しめる点から、シバザクラはグラウンドカバープランツとして、公園や公共工事、畦畔などの場面で幅広く使用されています。

シバザクラの活用実態

先述の滝上公園や羊山公園のように、シバザクラを観光の目玉としている公園が、日本各地に

いくつも存在します。色とりどりのシバザクラが一斉に咲き誇る景観を目当てに、毎年たくさんの人が訪れます。これらの公園で大規模にシバザクラが用いられている理由としては、シバザクラが多年生のグラウンドカバープランツである点（植えつけたら徐々に広がり、翌年以降も花が楽しめる）、常緑のため開花時期以外でも極端に景観が悪くならない点、管理が容易である点、また、多数品種があり花色が豊富で、景観のデザインが容易な点が挙げられます。

福井県大野市の畦畔での取り組みや、徳島県の高開石積みシバザクラまつりなど、公園以外の場所でも、名所となるよう、地域ぐるみでシバザクラを育てているところも多くあります。観光名所となるほどの規模でなくても、花壇の縁取りや植樹帯の彩り、樹木の根締め、雑草抑制や土砂流出の抑制を目的として、公園や民家、斜面等でシバザクラが使われているのを見かけます。なお、都市部では、道路脇や中央分離帯、企業や商業施設敷地内などで、樹木や他のグラウンドカバープランツと併せて用いられることが多く、作り出した景観により、良好な屋外空間や安らぎの演出、企業や工場のイメージアップに役立っています。

農業分野では、畦畔法面用の管理植物として、センチピードグラスやイワダレソウなどと並んでシバザクラが使用されています。畦畔を管理する植物としては、被覆により雑草抑制機能があること、病気や害虫特にカメムシの住処にならないこと、法面を被覆し土壌流亡を抑止すること、景観が良いこと、管理が簡単で低コストであることが重要とされています。シバザクラは、ヒメイワダレソウ等に比べ被覆の速度が遅いため、植え付け本数によっては初期の雑草抑止能力については劣りますが、常緑で冬季に地上部が枯死しないため、全面被覆後には畦畔法面用の管理植物として、高い優位性を発揮します。また、開花時の鑑賞性の高さも、シバザクラが選択される一因となっています。なお、平成19年より「農地・水・環境保全向上対策」の取り組みが始まり、シバザクラを用いた景観形成として、集落ぐるみで苗を植えつける活動も増えてきています。

シバザクラの苗

日本の気象条件では充実した種子が採取できないため、シバザクラは通常、ポット苗の形態で販売されています。公共工事では、ポット苗を上から見た際に3方向（以上）に芽が分かれていることを表す3芽立ちという基準が使用されていますが、3芽立ちに相当する苗が全て良い苗という訳では有りません。シバザクラのポット苗の選択では、若い苗であることが良い苗を見分けるひとつのポイントとなります。地上部のボリュームがある苗は、一見良い苗に見えますが、根がポット内で極端に渦を巻いていたら、要注意です。そのような状態では、土に植え替えた際、根が広がらずに枯れてしまうことがありますので、植える際には注意が必要です。逆に、地上部

分が小さいものでも、若い苗は根がどんどん伸びていくため、活着しやすい苗となります。

なお、シバザクラには多数の品種（RHS PLANT FINDER 2007-2008 には 52 品種が記載）がありますが、日本で生産される苗の半数近くは、特に大きな（2.5cm 程度）ピンク色の花をつける、ダニエルクッション（McDaniel's Cushion）という品種です。ダニエルクッションの葉は濃い緑色で、ずんぐりとした外観です。他品種のモンブラン（Mont Blanc' 花は白色、葉の色はやや薄く、見た目はヒョロヒョロ）らと比べても、生長速度はかなり遅めのため、生産者としては扱いにくい品種ですが、生長速度が遅いため夏場に葉が重なって蒸れることが少なく、シバザクラの中でも特に耐候性に優れ、丈夫であるとされていることから、消費者に好まれる品種となっています。なお、先述のとおり、生産量も多く丈夫であることから、色の指定が無い限り、公共工事ではこの品種が優先して使われています。



若い苗（品種：リトルドット）
地上部は小さいが、細かい根が外側
に向かって伸びてきている。植え付
けに適した状態。



古い苗（品種：リトルドット）
地上部は大きいですが、根がびっしりと
巻いている。植え付けの際はしっか
りと根や土を揉みほぐす必要あり。

シバザクラの植え方

シバザクラは全国的に植栽可能ですが、特に関東以北のやや寒い気候に適します。花芽の分化には冬期間の一定の低温が必要とされているため、沖縄などの冬でも暖かい地域では、常緑で株は育つものの、花が咲かない恐れもあります。

シバザクラは、夏は強い西日が当たらず高温多湿でない場所、冬は日当たりが良く極端に乾燥せず、積雪が少ない場所を好みます。また、弱酸性～弱アルカリ性の土壤に植え付けが可能です。土壤改良は基本的には必要としませんが、耐湿害性がやや劣るため、粘土質の土や、水を多く含む火山性灰土については、赤玉土やバーク堆肥を用いた改良が必要です。なお、土壤中から水が染み出してくるような場所では、株が腐ってしまうため、植え付けには適しません。

植え付けは、一年を通して可能ですが、真夏に植える場合は、根が活着するまで定期的な灌水が必要となります。また、植え付け直後に霜が降りると、根が切れ、株が浮き上がってしま

うこともあるので注意が必要です。なお、シバザクラは3～6月ごろに著しく生長しますが、その時期は生育旺盛な夏雑草の発生時期とも重なるため、雑草管理の手間も踏まえると、植え付けは夏が過ぎ涼しくなってくる9～11月ごろが適しています。

実際に植え付ける際は、まずは、植え付けの穴を掘ります。その際、移植ゴテを用いて土をほぐしておくのと根が活着しやすくなります。水の入ったバケツに、苗をポットごと5分程度浸しておくのと、土が程よく湿り、植え付けが容易になります。苗を植える際は、株の根元をおさえてポットを取り外し、苗に付いた土を軽くもみほぐしてから植え付けます。根が長く伸び、ぐるぐる巻きになっている場合は、特に念入りに揉みほぐすか、根をカットしてから植え付けます。植え付け後は、株と周りの土の間に空間ができないよう、しっかりと押さえてください。植え付け後、根が活着するまでは、灌水が必要となる場合があります。土の表面が湿る程度に、適時灌水を行ってください（水のやりすぎに注意）。なお、夏場には早朝か夕暮れの気温の低い時間帯に灌水を行ってください。シバザクラの肥料要求性は低く、植え付け時の施肥はほとんど必要ありません。

1㎡あたり25株から64株が、標準的な植え付け数です。植え付け直後の株は小さいため、早く見栄えを良くしたい場合や、株の隙間から生えてくる雑草をできるだけ少なくしたい場合は、苗をより密に植え付けます。

シバザクラの管理方法

シバザクラの管理の中で、もっとも厄介なのが雑草管理です。苗どうしの間に隙間があればその部分から、苗が隙間無く地表を覆った後でも場所によってはスギナやメヒシバ、カヤツリグサやスズメノカタビラなどの雑草が生えてきます。シバザクラが全面被覆するまでの除草は特に重要ですが、全面被覆後でも、生えた雑草を放置していると雑草の被圧でシバザクラが衰退してしまいますので、適時、適切な管理が必要です。シバザクラが大きく育つようになる4月ごろ、梅雨明け後の7月ごろ、冬雑草が大きく育つ前の9月ごろの除草が、シバザクラの雑草管理では特に重要です。その他の時期でも、雑草を見つけたら、大きく育つ前に除去することが大切です。

シバザクラが全面被覆し、密植状態になると、梅雨の時期に蒸れて株元が枯れてくることがあります。開花後から梅雨に入る前（5～6月）に、3～5cm程度の丈になるまで大胆に刈り込みを行い、風通しを良くすることで蒸れを予防します。植え付けから3年目が、刈り込みの目安です。

なお、無くてもかまいませんが、花が咲く前に化成肥料か液肥を施すと良いとされています。また、根付いたシバザクラには、基本的に灌水は不要ですが、夏場に極端に雨が降らない日が続いた場合には、早朝や夕方の涼しい時間帯に水やりが必要です。また、夏の高温乾燥時には、ハ

ダニが発生する恐れもありますので、注意が必要です。

なお、シバザクラの株は植え付け後4～5年が経過すると、花の色が衰えていきます。上手に管理できていれば、10年後でも花は咲き続けますが、以前の咲き方に比べると、衰退は否めません。引き続き鮮やかな花を楽しみたい場合は、株分けや挿し芽などで増やした苗を用いて、少しずつ植え替えていくと良いでしょう。ちなみに、先のシバザクラの公園などでは、5年を目安に順次株を植え替えているそうです。

シバザクラと緑化の技術

雑草の繁茂を抑え、管理の手間を軽減するため、グラウンドカバープランツの植栽時に、ポリプロピレンやポリエステルを材料とする通気性、透水性、遮光性を備えた織布ないし不織布製のマルチ資材、いわゆる植栽シートを用いることがあります。雑草生育による被圧が軽減されるため、4～6株/m²（裸地へ植え付ける場合の1/5～1/10程度）の植え付けで、2年で全面を被覆するほどにシバザクラが生長することが、植栽シート使用の利点です。なお、シバザクラ、特にダニエルクッションは、常緑である点（シートの表面に枯れカスが堆積しない）、被覆する点（まず植え穴を覆い、最終的にシート上の全面を覆う）、ゆっくりと広がる点（頻繁な刈り込み管理は必要とせず、植物が重なることによる蒸れも起こりにくい）、匍匐枝から根を下ろす点（シートに根が絡み、風で煽られた際に捲れにくくなる）、土壌をあまり選ばない点（雑草の生えているような場所であれば、大抵の場合問題なく生育する）などの特徴があり、植栽シートとの相性が最も良い植物です。植栽シートの抑草効果とシバザクラの被覆により、均一なシバザクラ景観が形成され、加えてシバザクラの水平成長によってシートを押さえ、捲れにくくなることから、安定したシバザクラ植生の維持が可能となります。



織布と不織布を組み合わせた、二層構造の植栽シートを用いたシバザクラ（ダニエルクッション）の植栽
4株/m²植栽し、11ヶ月経過した状態



土嚢を用いて工場フェンス下を緑化した事例
コンクリート壁面の上でも、十分に生長する。現在設置8年が経過。

また、コンクリート縁石の周りなど、土壌が極端に少ない場所では、シートを土嚢状に加工した資材を用いることで、シバザクラでの緑化が可能です。土嚢中に含まれる土壌の量は決して多くはないのですが、シバザクラは良好に生長しています。また、ウッドチップや植物残渣をマルチング材としてシバザクラと併用することで、よりシバザクラを引き立てる化粧材としての効果、雑草進入の抑止、土壌の固化防止などの効果が期待されます。

さて、このような資材を併用した場合でも、植え穴部分や資材の隙間、シバザクラ被覆部分に溜まった土壌の部分などから雑草が発生してくることがあるため、決して管理が無くなるということはありません。植栽シートを用いたシバザクラ緑化に限って言えば、一番の雑草発生箇所はシバザクラを植える際にあけたシートの穴（植え穴）の部分であり、シバザクラがほぼ完全に植え穴を被覆するまでの期間、どのように雑草を抑えるかが課題となっています。こまめに除草を行うのも方法の一つですが、植え穴部分に資材を用いて物理的に穴を塞ぐ方法、より小さい苗を用い、できるだけ植え穴を小さくしておく方法、シバザクラおよび周辺に影響を及ぼさない範囲で除草剤を使用する方法などが検討されています。特に、除草剤の利用については、シバザクラ植え付け直後のトリフルラリン・イソキサベン混合粒剤の雑草出芽前処理が植え穴雑草防除に効果的であることが明らかになっています。また、植栽シート上を先のウッドチップ等で覆い植栽することで、より雑草防除効果、景観向上効果を高める方法も用いられています。なお、このシート上を天然資材で覆う手法は、米国ではごく一般的な技術です。

シバザクラの景観をよりよく維持していくために、上記のような資材・工法を組み合わせ、効果的に活用していくことが、今後必要とされています。

シバザクラの増やし方

最後に、シバザクラの増やし方について紹介します。日本では、種子で繁殖する例はほとんど無く、シバザクラの苗は主に株分けや挿し芽によって生産されています。株分けは容易で失敗しにくい手法ですが、大量に苗を作る必要のある生産農家の多くは、挿し芽の手法にて繁殖を行っています。挿し芽の最適期は3～6月といわれていますが、9～10月でも、充分可能です。シバザクラの株から5cm程度の穂を切り取り、下から2cm程度の葉を取り、ポットやセルトレイに入れた肥料分の少ない土に挿していきます。挿し芽の秘訣は、できるだけ若い穂を用いることと、水管理です。発根が見られるまでは、穂が乾かないように十分な灌水を行い、発根が確認できた後は、灌水回数を抑えます（土の表面が乾いていたら灌水する程度）。必要に応じて大きめのポットに移植を行い、同様に水管理を継続します。挿し芽開始時期により多少差はありますが、開始か

ら4~6ヶ月で、植え付け可能な苗が出来上がります。

意外に思うほど簡単に増やすことが出来るので、シバザクラに興味を持った方は、この記事に参考にぜひ育ててみてはいかがでしょうか？



シバザクラの穂

下部2cm程度の葉を取り除き、土に挿す。条件が良ければ、現場に直接挿して増やすことも可能。



発根の様子

挿し芽後2~3週間で、発根が見られる。根が出てきたら、水管理の頻度を変更する。



ポットへの移し換え

セルトレイからφ9cmポットへ、穂を移し換え。このまま大きく育てて苗が完成。

写真提供：白崎健悟氏（(株)白崎コーポレーション）

参考文献

- 有田博之・藤井義晴 1998. 「畦畔と圃場に生かすグラウンドカバープランツ」.農文協. 1-170
- 榎本博之 2003. シバザクラによる畦畔緑化-福井県丹生郡における取り組み-.芝草研究 32(別) : 64-70
- 伊藤操子 2009. 緑化場面の雑草問題とシート活用技術:試験事例からの考察. 防草緑化技術研究所第1回シンポジウム講演要旨 防草・緑化へのシート活用の現状と将来. 19-27
- 角龍市朗・伊藤操子・伊藤幹二 2007. 防草シートを利用したシバザクラ植被形成における雑草の影響とその防除. 雑草研究 52(2) : 57-65
- 中島敦司・養父志乃夫・榎田達矢・永田洋 1997. シバザクラの開花に及ぼす低温処理の影響. 日本緑化工学会誌 23(1) : 20-25
- 農文協編 花卉園芸大百科 12 宿根草. 678-679, 691-695
- 大谷一郎・渡辺修・伏見昭秀 2007. 畦畔法面への利用を前提としたグラウンドカバープランツの生育および土壌保全機能と植栽斜面方位との関係. 近中四農研報 6 : 39-53
- RHS PLANT FINDER 2008-2009. P568